

問題

【新聞から学ぶ英文法】

- ポイント1：to不定詞は「to+動詞の原形」を中心とする「ひと固まりの表現」。前置詞のtoと同じように「さし示す」というイメージを持っています。
- ポイント2：to不定詞を文中のさまざまな位置に置き、主に、主語や目的語(名詞)、修飾語(形容詞・副詞)として使います。

中泉監督が話した「言葉」を不定詞を使って英作文しましょう。

- ①「やろうと思えばできることはいっぱいある」
※「やろうと思えばなんでもできる」と簡略化します。「(あなたは)なんでもできる」と主節を作り、条件を課す接続詞のifを使い「もし(あなたが)本当にやりたいのなら」を続けます。ここで「～したい」で不定詞を使います。
- ②「野手に心理的なプレッシャーを与えるような強くて低い打球を打つ」
※「強くて低い打球を打つ」のは、「野手に心理的なプレッシャーを与えるため(目的)」です。ここで、「～ために」を不定詞を使って表します。

(高校/英語)



ベンチ前で選手に指示を出す金足農の中泉監督

「練習通りの成果が出た」中泉監督ねぎらう

大舞台の緊張を感じさせない普段着野球を最後まで貫いた。準優勝した金足農の中泉監督は「練習通りの成果が出た。よくやったと

思う」とナインをねぎらった。

「やろうと思えばできることはいっぱいある」。練習の1分1秒を無駄にしない

い指導が実を結んだ。例えば打撃練習。「ストライクを見逃さない」「強いスイングをする」。一つ一つのプレーに意味を持たせ、実践につながる感覚を養った。

象徴的なのが打撃や守備練習と同じように時間を割いた犠打だ。「しっかりと球を捉える意味ではバントもバッティングにつながる」。決勝で三つ決めて、全6試合で22個。準々決勝で逆転サヨナラの2点スクイズを決めるなど、緊迫した場面で小技を武器にする戦いは、打高投低の色合いが

濃くなりつつある高校野球界に強烈な印象を残した。「本塁打を打ってほしいとは思わない。野手に心理的なプレッシャーを与えるような強くて低い打球を打ってほしい」。相手を追い込む姿勢をたたき込まれた選手だからこそ、どんな状況でも諦めずに自然体で戦えた。

中泉監督は3年生を「ずらっとしている」と表現する。秋田弁で「物おじしい」の意味。大観衆の聖地で金足農ナインは最後まで堂々としていた。

(剣持雄治)

日々のニュースから英文法を学ぶ実践例の紹介です。新聞のインタビューには核心をつく感動的な話が多くあります。その「言葉」を、現在習っている英文法を使って英作文をすることで、より印象深く記憶することができます。

(日本新聞協会NIEアドバイザー
・名取北高英語科教諭 大槻欣史)

出題者から

9月2日付「かほくワークシート」の模範解答

① 「やろうと思えばなんでもできる」

You can do anything if you really want to.

② 「野手に心理的なプレッシャーを与えるような強くて低い打球を打つ」

Hitters hit a ball hard and low to put psychological pressure on fielders.